



【巡視箇所】 八峰町 小入川地区・真瀬川下流右岸
 【巡視日】 平成31年2月6日（水）、3月8日（金）
 【巡視者】 専門官 有本 実 一般職員 齊藤 俊介

近年、白神山地周辺に分布拡大しつつあるニホンジカ（以下、シカ）。白神山地世界遺産地域科学委員会の中で、『越冬場所を見つけて捕獲するのが効果的』という意見が挙がっており、青森側では深浦町の笹内川下流域で越冬場所が見つかっています。そこで今年度はシカの冬の行動を観察すべく、八峰町小入川地区に設置していた囲いわな周辺に、合計3台のセンサーカメラを冬期間も設置し続けてみました。併せて、“ここで越冬しそうだ”と狙いを定めた真瀬川下流域を任意踏査してみましたので、この2地域の状況についてご紹介します。



種名	わな上	わな下	わな動画	合計
ニホンザル	8	2	6	16
キツネ	7	9		16
タヌキ	5	1		6
テン	7	1		8
ハクビシン	2	1		3
イエネコ	1	2		3
カモシカ	15			15
ニホンリス	1			1
ニホンノウサギ	4	2	1	7
不明ネズミ類	5			5
不明哺乳類		1		1
ヤマドリ	1			1
個体数合計	56	19	7	82
種数合計	10	7	2	10



2月6日と3月8日に小入川地区のカメラのデータ回収を行い、昨年11月26日からの撮影データを取りまとめたものが上の表になります。『わな上』『わな下』は、わな周辺の作業道に向けて静止画撮影したもので、『わな動画』はわな入口を狙って動画撮影したものです。冬眠

中のツキノワグマやアナグマ以外は、春～秋にこの付近に設置していたカメラに写り込んでいた動物達と同じ顔ぶれでした。わなの中から飛び出すノウサギも動画撮影されましたが、結局ニホンジカは写りませんでした。さらに2月6日にはカメラ周辺から小入川林道入口付近まで踏査してみましたが、かなり融雪が進んでいたこともあり、シカらしい糞や足跡は見つかりませんでした。



冬毛でモフモフのニホンザル

-4℃ ● 2019.01.03 16:24:38



獲物をくわえたキツネ

3℃ ● 2019.12.08 04:07:00



カモシカ

-7℃ ● 2019.02.19 08:28:11

【 センサーカメラで撮影された哺乳類 上位優占3種 】

3月8日にはデータ回収後、越冬場所探しに真瀬川下流域に向かいました。青森側で見つかった笹内川下流域の越冬場所について、現地確認された西目屋自然保護官の西田さんにお話を伺ったところ、「田畑に隣接した平坦なスギ林内で、外側からは灌木に覆われて林内の見通しが効かなかった」、との事。なるほど…冬にも落葉しないスギ林内なら強風が防げるでしょうし、雪融けの早い田畑の畔なら食糧の草本類に難なくありつけるでしょう。危険を察知すればすぐにスギ林内に隠られるし、林縁部の灌木類の新芽も餌になるに違いありません。さて、秋田側で同じような環境は…と Google Earth で目星をつけたのが、真瀬川下流域の右岸側です。河岸段丘面と支流の下山内沢沿いに水田や溜池があり、すぐ背後には民有地のスギ林が広がっています。これはシカがいそうだが、けどいるのはマズいぞ、などと複雑な心境でシカの生息痕を探してみました。



真瀬川下流右岸の景観（正面は真瀬岳）



下山内沢の景観



ササ類の食痕



草本類の食痕



灌木類の食痕（矢印箇所の新芽を食べている）



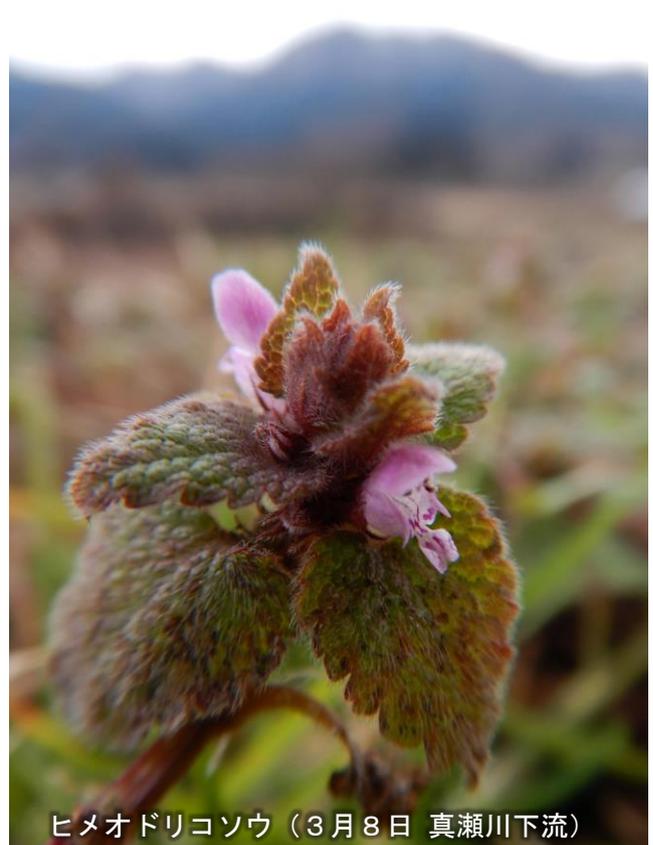
左写真の矢印箇所を拡大した様子

水田とスギ林の間に付けられた道路や、畔の草、林縁の灌木などを舐めるように見ていくと、所々でシカかカモシカの食痕が見つかりました。シカもカモシカも上あごの前歯が無いので、粗く引きちぎったような食痕になるのが特徴です。ノウサギだとナイフでスパッと切ったようなきれいな跡が残るので、区別がつけます。ただ、この食痕だけでシカかカモシカかは判断できません。雪上で冷蔵保存された状態の良い糞を採取して、西目屋自然保護官事務所にてDNAによる識別をお願いしようと考えていたのですが、現地は雪が全くなくて糞が見つかりませんでした。今年は想定外の雪の少なさで、遅かったか…と悔いが残りました。来年の冬にまた来てみようかと思案中です。

もしかしたら、シカ達はもうすでに越冬モードから活動モードに切り替わり、広域に分散しはじめているかもしれません。4月から再開するセンサーカメラの調査では、越冬場所の解明につながるように、海沿いからの移動経路を考慮した設置箇所を検討していきます。（有本）



フキノトウ（2月6日 小入川）



ヒメオドリコソウ（3月8日 真瀬川下流）